



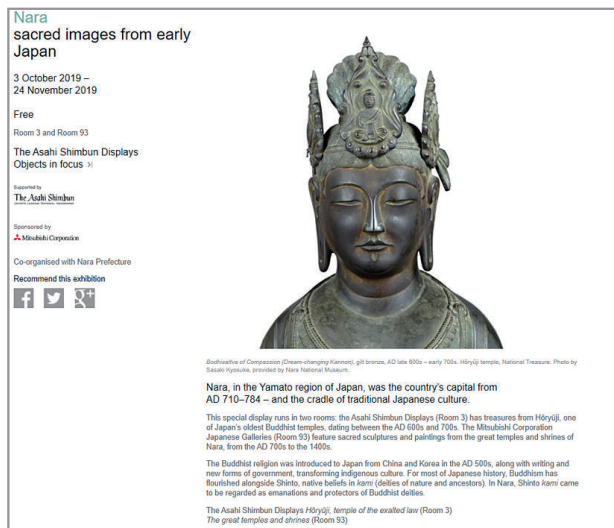
世界に広がれ！ シルクロードの終着点、古都奈良の新たな魅力！

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 野坂 篤志 (和歌山県派遣)

古都奈良の名宝、ロンドンへ！

奈良県では2019年の1月から3月にかけて「ジャポニスム2018：響きあう魂」の公式企画の1つとしてフランスのパリにあるギメ東洋美術館において「仏像展示『古都奈良の祈り』」と題し、奈良が誇る国宝級の仏像の展示を行い、大変な好評を博しました。

そして今回、ギメ東洋美術館での展示に引き続き、パリからロンドンに舞台を移し、大英博物館において、「奈良－日本の信仰と美のはじまり」NARA: sacred images from early Japanとして、古都奈良を代表する名宝の出陳を行いました。今回はこの事業についてレポートします。



奈良企画展のウェブページ (大英博物館のウェブサイトから引用)

ジャポニスム2018 企画展 「古都奈良の祈り」

「仏像展示『古都奈良の祈り』」は、「ジャポニスム2018：響きあう魂」の公式企画の1つに位置づけられ

て開催されました。

「ジャポニスム2018」は、2015年10月から2016年4月にかけて、安倍晋三内閣総理大臣により主催された「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」において、「日本博」を実施するという方向性が示され、2016年5月、日仏首脳会談に際し、日仏友好160年に当たる2018年にパリを中心に日本の文化を大々的に紹介する機会を設けたいとして、安倍総理がフランスのオランド大統領(当時)に協力を求め、両国の合意により実施に至った大型日本文化紹介事業です。

奈良県では、「ジャポニスム2018」を県への誘客を促す絶好の機会と捉え、当行事に積極的に参画することで奈良の奥深い魅力を発信できると考えました。

古都奈良には、ユーラシア大陸における東西文化交流を背景に持つ仏像が受け継がれてきました。奈良の社寺では長い祈りの歴史とともに、その伝統に根差した造形文化が育まれています。



来場者で賑わう「古都奈良の祈り」の様子

この企画展では、名刹・興福寺で大切に守り伝えられてきた至宝のうち、「木造地藏菩薩立像」(重要文化財)と「木造金剛力士立像(阿形・吽形)」(国宝)を厳選して展示しました。普段は奈良を訪れなければ味わえな

い、眼前の仏像から放たれる美しさや迫力、その精神性
の一端を伝える貴重な展示をとおり、シルクロードの東
の終着点として日本文化の礎を築いた古都「奈良」の新
たな魅力を紹介しました。

「ジャポニスム 2018」には、パリ市の人口約 220 万
人を大きく上回る 350 万人超が訪れ、「古都奈良の祈り」
展にも延べ 223 万 3,237 人が訪れ、広く奈良の魅力を
発信することに成功しました。

「奈良－日本の信仰と美のはじまり」 NARA : sacred images from early Japan

ギメ東洋美術館での「古都奈良の祈り」展に引き続き、
大英博物館における「奈良－日本の信仰と美のはじまり」
展では、古都奈良を代表する古刹・法隆寺、薬師寺、東
大寺、唐招提寺、西大寺、さらに春日大社、丹生川上神
社の名宝を出陳することで、イギリスにおいても奈良の
魅力をアピールすることとなりました。



企画展示室の案内

今回の展示会は、奈良県側関係者の積極的な働きかけ
があったのはもちろんのこと、大英博物館が世界的にも
歴史的にも重要な価値をもつシルクロードと奈良県の仏
像の関係性に注目したことが開催につながった要因との
ことです。

この展示会は、2019年10月3日から11月24日ま
で大英博物館の日本ギャラリーおよび正面玄関入り口近
くの展示室で行われ、奈良県からは国宝級の多数の仏像
等と、大英博物館の所蔵品からも多数出陳され、その内

容は国宝 銅造観音菩薩立像（夢違観音）（法隆寺）、国
宝 銅造誕生釈迦仏立像および灌仏盤（東大寺）、重要文
化財 木造増長天立像（唐招提寺）、重要文化財 木造如
意輪観音坐像（西大寺）、重要文化財 木造地藏菩薩立像
〈善円作〉（薬師寺）、重要文化財 舞楽面、散手〈定慶作〉
（春日大社）などと、歴史的観点、芸術的観点から見ても
非常に重要なものばかりです。

普段、これだけの仏像を奈良県に行ってみるとなると
中々難しく、今回の展示によってこれら大英博物館
で見られるという点においても非常に貴重なイベント
です。



企画展示室の様子①



企画展示室の様子②

オープニングセレモニー

10月3日から始まる本格的な展示に向けて10月2
日に大英博物館日本ギャラリーにて開催されたオープ
ニングセレモニーでは、奈良県から荒井知事や県議会関

係者、大英博物館側から館長らをはじめ、在英国日本国大使、スポンサー関係者や報道関係者などが招待され、無障法要や御神楽などの仏像に対する儀式がお披露目されました。



関係者で賑わうオープニングセレモニー①

セレモニー後の懇談の時間には、熱心に仏像を鑑賞し、関係者らに色々と質問をされる方が多数いたことが非常に印象的で、関心の高さを感じました。



関係者で賑わうオープニングセレモニー②

ロンドン事務所による活動支援

ロンドン事務所では、今回、活動支援として奈良県側と大英博物館側との打ち合わせについて支援を行いました。仏像の展示に向けては多数の文化財を展示することから、文化財を保護する目的で定められている環境管理の基準を満たさなければなりません。また、搬入の経路を実際に確認し、輸送に支障を来す箇所が無いかなどについて輸送計画の検証や、公開に合わせて行うイベントについての動線や演出についての議論が熱心に行われました。

打ち合わせ当日は、大英博物館側から日本セクション長のティム・クラーク氏をはじめ、輸送、展示、展示物管理、マーケティング等の各担当者が一堂に会し、あらゆる面からの話ができる体制を整えて打ち合わせに臨むなど、大英博物館側の今回の展示に懸ける意気込みが伝わってきました。



関係者打ち合わせの様子

終わりに

今回の事業は、奈良県の仏像がシルクロードという壮大な歴史的、文化的ドラマの一部であるというように、世界との関係性をアピールしたことが多くの人の興味を引くきっかけの1つになったのではないかと思います。

今回のこの展示を通して、日本への興味をさらに持っていていただき、すでに海外に良く知られているもの以外にも日本には素晴らしいものがあるということに目を向けていただく良い機会になればと願っています。



仏像を熱心に鑑賞する来場者